



# 夢先案内

県立鏡が丘特別支援学校  
進路だより 8号  
2018年 1月号

1月10日(水)に4人の本校卒業生を講師にお迎えし、進路講話が行われました。照屋加代子さんは2つの大学を卒業し、英語、韓国語をあやつり、イタリア語もあいさつ程度は話せるとのことでした。今回は趣味のスキューバダイビングについてお話して下さいました。鏡が丘のプールで自分より障害の軽い方が泳ぐことに苦労しているのを見ており、初めは「手も足も動かない自分には無理」と思ったそうです。しかし、「日本バリアフリーダイビング大会」に出会い、ボランティアや指導者の方々の援助を受け今は魚とのふれ合いがとても楽しいとのことでした。人見知りがあったのですが、ダイビングを通して友人も増え、沖縄各地はもちろん、ハワイや韓国の海にも潜ったことがあるそうです。「やりたいことは口に出せば、夢は叶う」が好きなことばだそうです。



当間則友さんは現在沖縄大学社会福祉学科2年生です。目標は「社会福祉士になりたい」「彼女を作りたい」「友人をたくさん作りたい」「運転免許取得」の4つだそうです。運転免許は仮免許試験など何回か落ちましたが、無事取得でき、ドライブも楽しんでいます。友人は「サークル国場555プロジェクト」に参加することでできました。活動を通して自分が役に立っている実感が持っています。人見知りなので彼女はまだできていませんとの事でしたが、2つの目標は達成しているのので、いずれ、残りの2つも達成してくれるものと思います。



志良堂静弥さんは就労移行事業所「アップドゥぎのわん」を経て、現在は就労継続A型事業所「オレンジハート」に勤務しています。最初の勤務場所では社会に出る事が怖く、慣れなくて居場所がないと感じました。「あれこれコミュニケーション」という活動が役に立ち、段々お話ができるようになってきました。事業所はトイレ・通路が狭く車いす対応にはなっていませんがスタッフが対応してくれます。学生時代はチャレンジがこわかったが、今はチャレンジする自分が好き。様々な支援機関を利用して、今は路線バスやモノレールに乗って、外出するそうです。



吉嶺左恭さんは、自立サポートセンターにいるかで勤務6年目のOBです。「やりたいことは何でもできるように考える」を実行する左恭さん。今までに一人暮らしやバス通勤、祝日は自らチケットを取って趣味の民謡ライブにも出かけています。そんな左恭さんが皆さんに伝えたことは大きく分けて2点ありました。1つは、やりたいことを周りに話すこと。できるように考えて行動していけばできるようになると言っていました。もう1つは、身近な人から話を聞くこと。聞かれた人は話せる範囲でしっかり向き合うこと。この経験を積み重ねることで、少しずつだけど何でもできるようになると言っていました。まだまだ自分も道半ばなので、「一緒に夢を実現していこう」という言葉で締めくくられていました。

生徒の皆さんは、卒業後の生活についていろいろ不安があると思いますが、4人のお話はそんな皆さんにとって勇気をもたらえるお話だったと思います。短い時間でしたので、まだまだ質問し足りないと思った方は、先生方を通して遠慮なく聞いて下さい。

